

氏名	瀧本千紗
授与した学位	博士
専攻分野の名称	看護学
学位授与番号	博甲第155号
学位授与の日付	令和6年3月22日
学位論文の題目	妊娠期から子育て期の夫婦関係とボンディングに関する研究
学位審査委員会	主査 荻野 哲也 副査 井上 幸子 副査 實金 栄 副査 伊東 秀之 副査 樂木 章子

学位論文内容の要旨

ボンディングは、親が子に対して「かわいい、愛おしい」と思う感情面での絆である。欧米では1990年頃から研究が行われてきたが、近年日本においても産後うつではなくボンディング障害こそが新生児虐待の素因となることが注目されている。更に、妊娠期においてはボンディングの問題が原因で母親の抑うつが発生することも明らかになってきている。現在日本では、産後の家庭訪問時に3つの質問票（育児支援チェックリスト、エジンバラ産後うつ質問票:EPDS、赤ちゃんへの気持ち質問票:MIBS-J）が調査されることが多いが、基本的には訪問時の調査1回限りで、継続的な調査はされていない。しかし現在、ボンディングが不良な母親の怒りと拒否の症状は、時間とともに悪化していくことが明らかになっており、継続的かつ積極的な介入が求められている。一方で、夫婦関係は子育て期に悪化しやすいこと、妻の夫婦関係満足度は夫より有意に低いことが明らかになっている。

ボンディングに影響する要因に関する研究は、成人アタッチメントの側面からの研究が発展し、重要他者の中でも配偶者とのアタッチメントが不良、つまり夫婦関係が不良な場合に、ボンディングが不良であることが指摘され始めている。また Müller は妊娠期のボンディングについて、妊娠期のパートナーとの関係が妊娠への適応を生み出し、この適応が胎児への愛着を加速させることを指摘している。

本学位論文は、妊娠期から子育て期の夫婦関係とボンディングについて調査し、妊娠期の夫婦関係が妊娠期から子育て期のボンディングを予測するのかを明らかにすることを目的とした。これまでの先行研究では、子育て期においてはボンディングと産後うつは相関関係にあること、抑うつがボンディング障害を予測することが明らかになっているが、妊娠期においてはその関係性が十分明らかになっておらず、妊娠期のボンディングが抑うつに影響するという研究もある。したがって研究1では、妊娠期の夫婦関係とボンディング、抑うつの三者の関連を明らかにした。次に研究2として、研究1での知見を踏まえて、抑うつとボンディングの関係を考慮した上で妊娠期の夫婦関係が子育て

て期のボンディングを予測するのかを縦断的に明らかにした。

研究1は、妊娠期の夫婦関係とボンディング、抑うつ関連を明らかにすることを目的とし、質問紙調査を実施した。20歳以上の妊娠中の母親と父親5,955組11,910名を対象に、基礎情報、Mother-Infant Bonding Questionnaire、Edinburgh Postnatal Depression Scale、およびQuality Marriage Indexの回答を郵送で依頼し、265名の母親と257名の父親から回答を得た。構造方程式モデリングを使用して三者の関連を検証した結果、妊娠期の母親父親の夫婦関係はボンディングと抑うつを予測し、両者のボンディングは抑うつを予測しないことが明らかになった。適合度指数は、母親と父親のCFIでそれぞれ0.977と0.976、RMSEAで0.041と0.042であった。母親父親ともに、良好な妊娠期のボンディングを形成するためには、良好な夫婦関係の形成が有効であることが明らかになった。また、妊娠期の抑うつを予防するためにも、良好な夫婦関係の形成が有効であることが明らかになった。

研究2は、研究1での知見を踏まえて、抑うつとボンディングの関係を考慮した上で妊娠期の夫婦関係が子育て期のボンディングを予測するのかを縦断的に明らかにすることを目的とし質問紙による縦断調査をおこなった。20歳以上の妊娠中の母親と父親5,955組11,910名に協力を依頼し、回答が得られた母親273名、父親268名のうち、すべての調査項目に回答が得られた母親172名、父親141名を分析した。質問紙は、基本属性、夫婦関係満足尺度、Mother-Infant Bonding Questionnaire、エジンバラ産後うつ質問票から構成される。調査時期は妊娠期、産後1週、産後1か月、産後4か月である。産後4か月のボンディングを従属変数とした階層的重回帰分析を行い、母親父親それぞれの夫婦関係は、ボンディングを予測するのかが検証した。分析の結果、母親と父親の妊娠期の夫婦関係は、抑うつの影響を考慮しても産後4か月のボンディングを予測していることが明らかになった。子育て期の良好なボンディングを育むためには、妊娠期から夫婦関係が良好に保てるよう支援することの必要性が示唆された。

主業績

No.1	
論文題目	子育て期のボンディングを予測する因子：妊娠期の夫婦関係からの検討
著者名	瀧本 千紗、沖本 克子
発表誌名	日本看護科学会誌、43 巻 566-577 頁、2023 年

副業績

No.1	
論文題目	Association between Marital Relationship, Bonding, and Depression during Pregnancy
著者名	CHISA TAKIMOTO, KATSUKO OKIMOTO
発表誌名	岡山県立大学保健福祉学部紀要、29 巻 1 号 31-42 頁、2022 年

関連業績

No.1	
論文題目	1 歳 6 ヶ月児を養育する父親の育児家事行動の特徴と夫婦関係満足度との関連
著者名	瀧本 千紗、濱 耕子
発表誌名	母性衛生、60 巻 1 号 74-82 頁、2019 年

論文審査結果の要旨

本論文は、妊娠期から子育て期の夫婦関係とボンディングについて調査し、妊娠期の夫婦関係が妊娠期から子育て期のボンディングを予測するのかを明らかにすることを目的に研究を行った結果についてまとめたものであり、得られた成果は次のとおりである。

序論では研究背景の説明と、妊娠期から子育て期における夫婦関係、抑うつ、ボンディングに関する文献検討が行われ、妊娠期の夫婦関係と妊娠期から子育て期のボンディングについての縦断的研究の必要性が述べられた。

本論第1節では、妊娠期の夫婦関係とボンディング、抑うつの三者の関連を明らかにするための質問紙調査について述べられた。分析の結果、母親父親ともに、良好な妊娠期のボンディングの形成と抑うつの予防には、良好な夫婦関係の形成が有効であることが明らかになった。

本論第2節では、第1節での知見を踏まえて、抑うつとボンディングの関係を考慮した上で妊娠期の夫婦関係が子育て期のボンディングを予測するのかを縦断的に明らかにするための質問紙調査が述べられた。分析の結果、母親と父親の妊娠期の夫婦関係は、抑うつの影響を考慮しても産後4か月のボンディングを予測していることが明らかになった。

総括では子育て期の良好なボンディングを育むためには、妊娠期から夫婦関係が良好に保てるよう支援することの必要性が示唆された。

以上の結果より、学術上、實際上寄与するところが少なくない。よって、本論文は博士（看護学）の学位論文として価値あるものと認める。